のうりん NO-RIN

白鳥士郎 SHIROW SHIRATORI

イラスト 切符

特別編

農林サッカー

NORIN SOCCER

アニ×サカ!!

FC岐阜＋『のうりん』
東京ヴェルディ＋『甘城ブリリアントパーク』
水戸ホーリーホック＋『ガールズ&パンツァー』

第1戦 東京ヴェルディ VS 水戸ホーリーホック 試合終了	第3戦 FC岐阜 VS 水戸ホーリーホック 5/31 SUN 18:00 KICK OFF 長良川競技場	第5戦 水戸ホーリーホック VS FC岐阜 9/27 SUN ケーズデンキスタジアム水戸
第2戦 東京ヴェルディ VS FC岐阜 試合終了	第4戦 FC岐阜 VS 東京ヴェルディ 7/8 WED 19:00 KICK OFF 長良川競技場	第6戦 水戸ホーリーホック VS 東京ヴェルディ 10/18 SUN ケーズデンキスタジアム水戸

アニメ×サッカー×地域振興！コラボマッチ絶賛開催中！！

特別編　農林サッカー

「サッカー部が全員食中毒になったぁ？」
ある日の放課後。
部活で牛の調教をしていると、同じ2年A組でサッカー部の半谷くんが牛舎を訪れてそんな話を始めた。
「ああ……練習試合の前に気合いを入れるため部員みんなで寿司を食べに行ったら、俺以外の部員が全員……」
「ほれは災難やったねぇ」
『寿司』という単語に引き寄せられたのか、農がこっちに寄ってきた。林檎ちゃんも牛の揚羽号と一緒についてくる。
栽培専攻で牛を見慣れていない半谷くんは間近で見る牛のデカさに多少動揺しつつも話を続けた。
「それで……畑に相談があるんだけど――」
「ぼくに？」

「ああ。実は――――週末にある練習試合に出て欲しいんだ！」
練習試合って……サッカーの？
「ぼくが？　試合に？」
「ああ！　頼む!!　もちろん過真鳥も一緒に!!」
「そんなこと言われても……そりゃ部員がほぼ全員食中りになったら他からメンバーを集めなきゃいけないのはわかるよ？　でもぼく、別にサッカーが得意ってわけでもないし……」
「もちろん球技が上手そうなやつにも声をかけはしたんだが……そういうやつは大抵が他の体育系部活に入ってて、週末はそっちで試合があるからって断られたんだ」
「あー……まあそうだろうね」
「ただでさえうちの学校は男子が少ないからな」
継も話に加わる。こいつクラスメートが困ってるっていうのに、どこかウキウキしているような口調みたいな……？
なるほど。だいたい話はわかった。
でもいきなり部活レベルのサッカーをやれって言われても無理だ。体育の授業くらいならともかく。
「練習試合なんでしょ？　相手に謝って中止にしてもらえばいいじゃん」
「それはできない」

「なんで？」
「練習試合の相手は……田茂高校なんだよ！」
「ッ!!」
林檎ちゃん以外の全員が表情を一変させる。田茂高……だと!?
「たもこうって、お隣の学校よね？　普通科の」
「うん。その田茂高だよ林檎ちゃん……」
紛らわしくてよく間違える人がいるんだけど、ぼくらの学校は田茂農林高校。高山線を挟んでお隣にあるのは田茂高校で、普通科の進学校だ。
ちなみに少し離れた場所には私立の美濃田茂高校っていう学校があって、果樹園のド真ん中に建っているためうちの学校とよく間違われる。
それはいいとして。
「学力では絶対に歯が立たない相手だからこそ体力と勢いと心意気では負けない……だから俺たち運動部は他の学校に負けても田茂高だけには負けないって気持ちで今まで頑張ってきたんだよ!!」
半谷くんが絶叫し、ぼくらもそれに同調する。
「そうだよ！　頭じゃ絶対に勝てないのに体力でも負けたらぼくたちいったい何なの？　ってことになるもん！」

「生きとる意味があらへんやら！」
「わたしはべつにそんなこともないと思うけど……」
林檎ちゃんはそんなことを言うけど、それは彼女が普通科から転入してきて普通に頭がいいからだ。
負けられない戦いが、そこにある！
「でも、そうか……そういう事情だったら練習試合でも中止にするわけにはいかないよね」
「ああ。不戦敗でも負けは負け。きっと未来永劫バカにされるに決まってる」
「そんなことないと思うけど……」
林檎ちゃんはそんなことを言うけど（以下略）。
半谷くんは運動部らしくキビキビした動作でもう一度頭を下げると、
「頼む！　一試合だけでいいから力を貸してくれ！」
「う～ん……でも週末も部活で牛の世話があるからなぁ」
「生きものの世話は休めんでねえ」
緊迫した空気に緊張したのか脱糞する揚羽号の糞を長柄のショベルで素早くキャッチしながら農が言った。職人の技だった。
「そうそう。バイトならともかく、サッカー部の手伝いするから休ませてくれなんて言ったら部長が何て言うか――」

「田分け者!!」
と、サッカー部への協力をためらっていたぼくらを叱責したその人は――
「良田さ……部長！　いや、おっぱい!!」
「良田でいいだろッ!!　なぜ言い直したのだッ!?」
それは、そこにおっぱいがあるから……。
「田茂高の連中に負けることなど絶対に許さん！　連中はダニだ！　泥棒猫だ！　我が『どうちょけん』の総力を……いや！　田茂農林高校農業クラブ会長として、この学校の総力を挙げてでも叩き潰してくれる!!」
拳を震わせながら、そして巨乳をもっと震わせながら、良田さんは力強く宣言した。
「総力戦だッ!!　絶対に勝ちに行くぞ!!　絶対にだッッ!!」
「……おっぱいさん、どうしてあそこまでムキになってるの？」
「ほら、継の義理の妹の怜ちゃんが田茂高に通ってるから……」
「完っ璧に私怨入っとるやら」
「そこ！　何をコソコソやっているのだ!?　真面目にやれ真面目に!!」
最も不真面目な理由でやる気を出しまくってる良田さんがぼくらを非難する。権力が人をおかしくする好例だった。
とはいえこれでサッカー部の手伝いをできることになった。

できることにはなった……けど。
「半谷くん。田茂高のサッカー部ってどれくらい強いの？」
「そうだな……うちの部のベストメンバーを揃えて互角か、少し向こうの方が強いってところだと思う」
「もともと厳しい戦いなのかぁ。それはちょっと絶望的なような……」
「そんなことないわ」
力強くそう言ったのは林檎ちゃんだった。
「確かにサッカーは選手の力量が重要……でもそれ以上に重要なのは戦術とチーム力よ。負けない戦いはできるわ」
「林檎ちゃんサッカー詳しいの？」
「そこそこ」
「リンゴっちはサッカー漫画をどえらー読んどりゃあすでね！」
「キャプ翼はライジングサンまで全部読んでる」
「おお……」
『どやぁ』と小さな胸を張る林檎ちゃんが大きく見える……頭身が……。
「よし！　木下林檎、貴様を強化部長に任命する！　必ずや我がチームを勝利させるのだ！」
「ぎょい」

恭しく強化部長職を拝命した林檎ちゃんは、さっそくチームの編成に入る。
「ではまず代表選手をポジションごとに選考します。四十三人くらい」
……多くない？
「ねぇリンゴホジっち。サッカーのポジションってどんなのがあるの？」
「『FW』『MF』『DF』『GK』よ」
「はぁー……なんだかラノベの文庫みたいやねぇ。いっぱーあって難しいわ」
「もっと細かく分類できるわ。DFにもCB、SB、SWとかあるから」
悩みながら選手をリストアップする林檎ちゃんに、良田さんがウズウズしながら尋ねる。
「おい木下林檎。私はどこのポジションだ？」
「『PO』」
「ん？　その『PO』というのはどんなポジションなのだ？」
「パイ・オツ」
「何だそれは⁉　何なのだそれはッ⁉」
「パイオツ（PO）……サッカーボールに似た無駄な脂肪の塊を胸にくっつけている。その脂肪をちぎって食べさせることでチームをまとめる」
「なんだそのアン●ンマンのようなポジションは⁉　サッカーではないだろうそれは⁉」
「確かにお嬢、自前のサッカーボールが胸に二つくっついとるやら」

良田さんをからかっていると、それまでほとんど黙っていた継が発言した。
「さっきから聞いていると、どうもおまえたちはサッカーについて何も知らないようだな？」
「んー……まあ確かに昔からサッカーの試合ってそんなに見ないしね」
「日本代表を何となく応援するくらいやねぇ」
「そうか。そういえば岐阜県にはサッカーチームが一つしかないんだったな」
千葉県民が何か言ってるぞおい。
「J1ではレイソルを応援し、J2ではジェフを応援し……俺が千葉にいたころの週末はいつもサッカーの応援で終わってしまっていた。一チームしかない岐阜が羨ましいな」
なんでこいついきなり上から目線になってんの……？　岐阜ナメてんの……？
「やめろ貴様ら。今は仲間割れをしている場合ではない」
冷静さを取り戻したPOが、さっそくその職務を果たす。
「試合は週末だ。ポジションごとに有力そうなメンバーを揃え可能な限り個人練習をするのはもちろんとして、さっき木下林檎が言っていたように組織的にも強化する必要があるな」
POの発言を受け、ぼくは強化部長に尋ねる。
「林檎ちゃん、弱いチームを劇的に強くするにはどうしたらいいと思う？」
「そうね……」
林檎ちゃんは少し考えてから、

「監督をラモスにする」
「FC岐阜か！」
「下部組織（セカンド）の監督をラモスの息子にする」[1]
「FC岐阜か！」
「農協にスポンサーになってもらう」[2]
「FC岐阜か！」
「スポンサーからお米や野菜をもらってチームのみんなで食べる」[3]
「FC岐阜か！」
「フォワードが一点入れたら五千円あげる」[4]
「FC岐阜か！」
「ディフェンスが一点入れたらフィギュアをあげる」[5]
「東京ヴェルディか！」
「『鉄壁防御（ツーディメンションラブ）』の能力者をディフェンスに入れる」[6]
「井林章（いばやしあきら）か！」
「スタジアムにうどん持ち込み禁止」
「カマタマーレか！」[7] それって本当なの？　ネットでよく見るけど……」
「急にお金持ちになる」[8]

「FC岐阜か！」
「マスコットはレンタル」
「FC岐阜か！」
「が、十一体」
「ミナモか！」[9]
「プリニーも応援マスコットになってくれる」[10]
「日本一（にっぽんいち）ソフトウェアか！」[11]
「マスコットが怪我をするたびにスポンサーがつく」[12]
「ヴェルディ君か！」
「マスコットに萌えキャラを作ってコミケ参戦」[13]
「川崎フロンターレか！」
「よしかつ！（パパパン！）よしかつ！（パパパン！）」
「川口能活（かわぐちよしかつ）！」[14] 川口能活！　俺らの能活！　栄光へーとーもにー♪」
「長良川（ながらがわ）の鮎（あゆ）を三十匹くらい食べる」
「それはピクシーだから！」[15] 名古屋の人だから！」
「後援会の名前は『オレンターノ岐阜』」[16]
「FC岐阜か！」

「試合前に高校生が飛騨牛の碁盤乗りを披露」[17]
「FC岐阜か！」
「試合後にスタジアムでアニメ鑑賞会」[18]
「水戸ホーリーホックか！」
「ゴール裏に戦車」[19]
「大洗の日か！」
「あんこう汁お[20]いしいです」
「大洗の日か!!」
「ふくやの明太子お[21]いしいです」
「アビスパ福岡か！」
「飛騨牛串焼きたべたい」
「こもりさんか[22]！」
「スタジアムからお城が[23]見える」
「FC岐阜か！」
「緑の血が流れている」[24]
「FC岐……ラモス！」
「アキラメナイ」[25]

「FC岐阜かっ!!」

このあと林檎ちゃんは「チームの連帯感を強化するため」という理由で『自転車による美濃田茂市一周キャンプ』を提案。選抜メンバーは二十キロの食料を背負い通学用のママチャリに跨がって起伏に富む美濃田茂市を回ることで九十分間ピッチを走り続けることのできる持久力を獲得し、テントや寝袋を使って野宿することで急ごしらえのチームにおける選手間の連帯感を高める効果も期待された。「てか普通に農作業でよくない?」と言ってはいけない。架空通貨『GIFU』を使用した食料調達を織り交ぜることにより選手の自己解決能力を格段に向上させることにも成功。川原に落ちているゴミや流木を使って筏を組み木曽川を下るというセルフライン下りではあわや転覆の危機に晒され、美濃田茂市の最高峰である御殿山では同行した林科の先生が「事故といえば事故の範疇。すでに遭難の範疇」と言うところまで追い込まれ、美濃田茂最大のパワースポットである古井の天狗山では高さ十二メートルの天狗像（日本最大）をよじ登るという修験者のような体験で困難に挑戦する勇気も獲得できた。極限の中で生まれる連帯感。目的を達成するための強い意志。この二つを育てるという林檎ちゃんの目論見は試合までの短い期間に見事達成されたのだった。ファジアーノ岡山[26]の冬キャンプのパクリだこれ。

ところで気づいたら**一度もサッカーボールに触れてなかった**んだけど、これも「サッカーをしたいという気持ちを高めるため」なのだという。

ハ・ン・パじゃない……。

※

そういうわけでぼくらは必勝を期して各学科からの運動神経のいい連中をかき集めて特訓し、良田さんはＰＯ、林檎ちゃんは強化部長、そしてぼく自らはキャプテンとなってサッカーの練習試合に出場することになったんだけど、ここにきてメンバーの様子がおかしい。

と、いうより……変だ。

「よし！　みんな集合！」

試合直前。

アウェーである田茂高校のグラウンドに散って思い思いのアップを行っていたメンバーに号令をかけて集合させる。

ボールを中央にして円陣を組んだ田茂農林選抜メンバー。

どの顔もヤル気に満ちあふれている。

誰もがキックオフを待ちきれない、そんな表情だ。

「聞いてくれ」

僕はピッチに集まったみんなを見回しながら、

「これから宿敵田茂高校を相手にサッカーの練習試合が始まるわけだけど……その前に、確認しておきたいことがある」

いったい何だろう？

不思議そうに顔を見合わせる農林代表たち。

そのうちの一人を指差して、ぼくは叫んだ。

「ビーチバレー部の浜岡（はまおか）部長！　どうしてあんた海パン一丁で来てるんだよ⁉　ユニフォーム渡したでしょ⁉」

「おいおい俺たちは誇り高きビーチバレー部だぜ？　服なんか着てられっか！」

「今日はサッカーの試合だからサッカー部のユニフォームを着ろって言ってるんだよ！」

「俺たちのユニフォームは海パンとこの鍛え抜かれた肉体（カラダ）だけだぜ‼　なあ健（けん）⁉」

「ＹＥＳ！　バター健！」

出たァァァァァァ‼

「バターだかマーガリンだか知らないけど困るんだよユニフォーム着てもらわないと！　ん⁉　な、なんかおまえ……異様にテカッてない？」

「バターを塗ってボールを滑りやすくしてあります」

「滑りやすくしてどうするんだ⁉」

「……」

「考えてないのかよ！」

ぼくはグラウンドの隅にある水飲み場を指さして、

「もういい！　とりあえずそのバターだけでもあそこの水道で落としてこい！　それからそこのホモ！」
「フフ……なんだい畑クン？」
「おまえもだ！　服を着ろ!!」
　ぼくは上半身だけ何も身につけていない状態でピッチに立つ造園科の花園（はなぞの）カヲルに予備のユニフォームを投げつける。
　こんなこともあろうかとユニフォームは人数分の予備を用意してあった。うちの学校は脱衣キャラが多い。ぼくの親友とかな！
「どうしておまえはそういちいち胸板や腹筋を他人（ひと）さまに見せつけないと満足できないんだよ!?　スパイクとかソックスとかレガースとかそういうのはちゃんと履いてんじゃないか！」
「他も脱いでもいいんだよ？」
「着ろって言ってるんだよ!!　今から何をおっぱじめるつもりだおまえは!?」
「ゴールにボールをねじ込むプレイだろう？」
「違うよ！　おおむねそうだけど違うよッ!!」
「フフ……思い出すよ。夢中でボールを追いかけていた、あの頃のことを……」
「それ絶対に違うモノ思い出してるだろ!?」
「ボクの玉（ボール）さばきを見れば、キミもボクに夢中さ！」

「なりません!!」
「ボールはともだち、こわくないよ!!」
「ともだちならいっしょにゴールへふっとんでしまえ!!」
「田茂農林、早く整列してください」（審判）
「あっ！　す、すいません！　もうちょっとで終わりますから！」
　こいつら裸族（らぞく）と会話をしていても一向に噛（か）み合わない。噛み合う部分が存在しない。そもそも服を着る習慣がないから……。
　まあいい。
　最悪、ユニフォームを着ていなくても試合はできる。バロテッリもよく脱いでるし。
　それよりも問題なのは――
「ベッキー先生！」
「うん！　わかってる！」
「わかってない!!　わかってる人はウェディングドレスでサッカーの試合に出ようとはしない!!」
　わっさわっさと嵩張（かさば）るドレスの裾を両腕で抱え上げて意外にも機敏なフットワークを見せつけてくるアラフォー毒女（どくじょ）に向けて、ぼくは根本的な問題を指摘する。
「そもそもどうして選手の中に教師が混ざってるんですか!?」

「未来のJリーガーと結婚するためだよ～☆」
「包んで！　もうちょっと発言を何かに包んで柔らかくして!!」
「ほら、サッカーって接触の多い競技でしょ～？　だ・か・ら、試合中にぶつかって骨の一本でも折って相手に責任取ってもらう的な？　いやん♡　先生キズモノにされちゃう～ん♡」
「あんたの脳と経歴は既に傷だらけですよ！」
これぞまさに真のトラップ。お夫妻捕トラップだ。ジョウダンジャナイヨ!!
逃げて！　田茂高の皆さん早くこの婚活モンスターの前から逃亡して!!
「で……でも先生！　未来のJリーガーっていっても相手はまだ高校生ですよ!?　Jリーガーになれるかもわからないし、そもそもまだ結婚できる年齢じゃないでしょ!?」
「ウフフ～♡　先生くらいのトシになると、一年や二年なんてあっというまに過ぎるものなんだよ～？」
「だからこそ焦れよ!!」
「田茂農林、早くしてください」（審判）
「はいはいはいはい！　今！　ただ今参りますので!!」
婚期を逃したアラフォーが焦らずになぜかぼくが焦ってしまう。ベッキー半端ないって！
コイツ半端ないって！　後ろ向きの人生めっちゃトラップするもん！　そんなん出来ひんやん普通!!

まあいい。
よくないけど、まだここまでは対応可能な範囲だ。
今、ぼくの目の前には対応不可能な存在がフィールドに立っている。
「良田さん……」
「何だ畑耕作。早く試合を始めんか」
「うん。ぼくもね？　ぼくも、一刻も早く試合を始めたいのはやまやまなんだけど……」
いい加減、審判の視線も厳しい。ピエルルイジ・コリーナさんみたいな眼光でこっちを睨んでいた。
その視線の先にあるものは――
「良田さん？　その……右手に持ったリードに繋がってる生きものは……？」
「牛だが？」
「うん。それはね？　それは見ればわかるんだ。ぼくが聞きたいのはどうしてピッチに牛を連れて来たかなんだ」
「無論、試合に出すためだ。決まっているだろう」
決まってねーよ。……ねーよ！
「いや、うん……え？　牛を試合に出すの？　サッカーの？」
「我が揚羽号は高等調教によって人類以上の能力を獲得したのだ。出場すればハットトリック

は間違いない」
わぁすごい。
「うんうん頑張ったね？　じゃあちょっとフィールドの外に連れて行ってあげてくれる？」
「ふざけるな！　今日この日のために揚羽には短期間でサッカーに必要な技術を教え込んだのだぞ⁉　揚羽も既にサッカーをする気になっている！　なあ揚羽⁉」
飼い主に話しかけられた黒毛和牛は軽く首を振って弾みをつけると、右の前脚で器用にサッカーボールを蹴った。蹴ったというか、軽く当てるって感じ。ボールは地面をころころと転がっていく。
まあこれはこれで確かに凄いんだけど――
「いやぁ……でも良田さん。これでシュートは入らないかと……」
「シュートに自信がないならパスをすればいいではないか」
「田茂農林、早く牛をピッチの外に出してください」（審判）
「何だと貴様⁉　牛をピッチに入れてはいけないと競技規則のどこに書いてある⁉　揚羽も立派なチームメイトだ！　侮辱すると許さんぞ、俗物ッ‼」
「やめて良田さん！　審判に喧嘩売らないで‼」
絶対に勝てないから！　常識で考えたら明らかにレッドカードだから！
「わかった。じゃあ揚羽はとりあえずゴールポストに繋いでおこ？　色も黒いからキーパーっ

ぽく見えなくもないかもしれないし……」
「わかればいい」
納得してゴールのところまで牛を曳（ひ）いていく良田さんを見送りながら、ぼくは審判に対して牛の存在をどう誤魔化せばいいのか必死に考える。答えは何も見つからない。
その時。
「ククク……なかなか大変そうだな、畑の大将……」
「金上（かねがみ）⁉　……は、普通だねぇ」
流通科学科のクセ者・金上はちゃんと準備してくれていた。どこからどう見ても普通にサッカーをする状態になってくれている。
「助かるよ金上。どいつもこいつもまるでサッカーする準備が整ってなくて……」
他の準備はバッチリなのにサッカーをする準備だけが整っていない。もはやイジメを疑うレベルだ。いじめＮＯ！　いじめ、カッコ悪い。
それに比べて金上の準備のよさはさすがの一言である。普通って素晴らしい。
「ククク……抜かりはねえ……」
金上は不吉な笑みを漏らすと、
「すでに相手チームのメンバーの半数は買収済みっ……！」
「抜かりなさすぎるよ！　たかが練習試合くらいで何やってんの⁉　っていうか買収って、い

ったい何で釣ったんだよ⁉」
「身体(からだ)だっ……！」
「か、カラダっ⁉」
それってまさか……か、金上の肉体を……⁉
「ああ……協力してくれたら好きにしていいと言ってやったぜ……」
「ダメだよ金上！　いくらなんでも、そんな――」
「おまえを」
「ぼくをっ⁉　アッ――‼　なんかさっきからぼくに向けられた相手チームの視線が妙にギラギラしてると思ったらそういうことだったのかーッ！」
しかもみんな男だ！　ナンテコッタ！
「っていうか困るよ金上！　そんな約束勝手にされたらぼくは超不本意な形でロストバージンしてしまうじゃないか！」
「キャプテンはチームのために尽くすもんだろう……？」
「ぼくはそんな形でしかチームに貢献することを許されないの⁉」
「よーし、一緒にご奉仕だ！」
「黙れ花園！　ぼくはおまえとだけは同列に語られたくないっ！」
「田茂農林の人！　早くしてください！」(審判)(キレ気味)

「すいませんすいませんすいませんっ！　すぐっ！　すぐ行きますから！」
うう……どうしてだよ……。
どうしていつもいつも、こんな残念な結末を迎えなきゃいけないんだ……！
「もう……終わりだ……」
フィールドにがっくりと膝を突き、腕に巻いたキャプテンマークを地面に叩きつけて、ぼくはそう言った。
近づいてきた林檎ちゃんが首を傾げる。
「終わり？　どうして？」
「だって勝ったらぼく相手チームにレイプされるんだよっ⁉」
これぞチームプレイならぬチームレイプだ。最悪だ。
「それに、どいつもこいつも変な格好してるし……こんな状態でサッカーなんてできるわけないよ……」
「耕作」
林檎ちゃんはその場に膝を突き、ぼくの肩に手を置くと、
「確かにみんな、サッカーのことを誤解している……いえ、中には明らかに、サッカーをできる状態じゃないのもいるわ。でもね、これだけはわかって欲しいの」
「……？」

「みんな、なにも悪気があってやったわけじゃない。ただちょっと、がんばる方向を間違ってしまっただけなのよ」
「ッ！」
その言葉で――ぼくは自分の誤りを悟った。
確かにみんな、サッカーをする格好じゃない。明らかにおかしなことやっとる。
でも、サッカーは服装でするものじゃない。
まず何より大切なのは、みんなと一緒にがんばろうとする気持ちだ。
選手のみんなで……いや、ピッチに立つ選手だけじゃなく、それを支える監督やスタッフやサポーターと共に進み、共に闘う気持ち。[27]
それさえあれば、サッカーはできるんだ。
「そうだ……勘違いしていたのはぼくのほうだ……！」
サッカーはチームプレイ。一人ではできない。
否定するのは簡単だ。
けれどまず相手を認めなければ、チームが一つになることはない。
「それなのに……ぼくはみんなにダメ出しするばかりで……」
大切なのは勝ち負けじゃない。
そのことを……勝ちに拘(こだわ)るあまり見失っていた……！

「ごめんよみんな！　ぼくが……ぼくが間違っていたっ！」
「わかればいいのだ」「ボクのほうこそ少し盛り上がってしまったかな？」「お詫びに結婚してあげる！」「バター健‼」
申し訳なさそうに謝ってくれるみんな。
くそうっ、なんて気持ちのいい連中だ！　ぼくって奴は……こんな素晴らしい仲間に囲まれていたのに、そのことに少しも気づかなかったなんて！　キャプテン失格だ！
目尻に浮かんだ涙を袖で拭う。俯くなよ。振り向くなよ。きみは美しい……。
ぼくは地面に叩きつけたキャプテンマークを再び袖に巻くと、ピッチの上に立ち上がり、笑顔を浮かべて叫んだ。
「よーし、みんな！　田茂高のやつらに目にもの見せてやろうぜ！」
「「おうっ！」」
試合を始めるために整列しようと走っていく仲間たち。
その背中を眩しく眺めるぼくに、一人だけ残っていた林檎ちゃんが声をかけてきた。
「ところで耕作。気づいてる？」
「何が？」
「サッカーは十一人でやるものよね？」
「そうだね」

「六人しかいないのだけど？」

【サッカー競技規則　第３条　競技者の数】
試合は、11人以下の競技者からなる２つのチームによって行われる。各チームの競技者のうち1人はゴールキーパーである。**いずれかのチームが７人未満の場合、試合は開始されない。**

そう。
試合前に行ったあまりにも苛酷なキャンプによって選抜メンバーが次々に脱落。継は川に流

され、農は架空通貨ＧＩＦＵの闇に飲まれ、サッカー部の半谷くんは未だ御殿山から帰山していない。
そして試合前日にはＦＣ岐阜が行っていたという金華山[28]での山登りトレーニングを慣行したのだけれど遭難者と負傷者が続出し、四十三人もいた代表選手はたった六人になってしまったのだ……。
「牛もウェディングドレス着たおばさんも選手の一員なんです!!」と全力で訴えたものの当たり前のように却下され、ぼくらは規定人数に達しなかったため不戦敗となった。

金華山で負傷するとか……ＦＣ岐阜か!!

※1　ラモスの息子

ラモス・ファビアノ氏。ラモス監督の長男。二〇一四年一二月にＦＣ岐阜ＳＥＣＯＮＤの監督に就任。なおラモス監督の長女はファビアナさんで、名前がけっこう似ている。

※2　農協

ＪＡぎふ。二〇〇九年からＦＣ岐阜のオフィシャルスポンサーとしてチームを支え続けてくれている。二〇一四年の『のうりんコラボ』では、飛騨牛の碁盤乗りを長良川競技場で行うため、牛を運ぶトラックの手配までしてくれた。

※3　お米や野菜

オフィシャルスポンサーとなったＪＡぎふさんは、たびたびチームにお米や野菜を提供。ＦＣ岐阜のホームページによれば『選手たちは目を輝かせながらお野菜を頂いていました』。長良川競技場を訪れたお客さんも、たまにエダマメがもらえたりする。岐阜のエダマメは品質が良く、主に関西方面で珍重されている。

※4　五千円

二〇一四年のホーム開幕戦で、就任直後のラモス監督が選手の得点力を強化するためＦＷの難波宏明選手に「一点取ったら五千円あげる」と言ったら本当に一点入れた。

※5　フィギュア

東京都立川市に本社があるコトブキヤさんが、同じく立川をホームタウンとする東京ヴェルディの井林章選手と結んだ『フィギュアパートナー契約』のこと。この契約により、井林選手は公式戦で得点を挙げると、コトブキヤさんから希望のフィギュアを一体プレゼントされることとなった。Ｊリーグどころか、長いプロサッカーの歴史の中でも確実に初めての契約であると思われる。

井林選手はディフェンスであるにも関わらず、二〇一四年七月一三日に行われた天皇杯二回戦のギラヴァンツ北九州戦で見事にゴールを決め、『とらドラ！』のヒロイン・逢坂大河のフィギュアを獲得。同年八月二八日に行われたフィギュア贈呈式では「毎試合、ロッカールームを出て行く時に『フィギュアを獲ってこい！』と言ってくれるチームメイトも多い」と語ると共に、『とらドラ！』についても熱く語った。ちなみにコトブキヤさんサイドでは井林選手から複数の候補を提示されていたもののその中で何を希望するのかまだ知らされていない状態だったため、スカパー！で放送されていたモンテディオ山形戦（七月五日）を偶然観戦していた担当者の方が、ハーフタイム中継で「ちなみに井林選手、一体目のリクエストはもう決めているそうです。大好きなアニメ『とらドラ！』の……えーっと（苦笑）これ、あいさかたいが？　という人が出てくるアニメだそうです」と抜き打ちで発表されたのを見て慌てたというエピソードがある。

このフィギュアパートナー契約は現在も継続されており、ツンデレ好きの井林選手は二〇一五年三月二一日の水戸ホーリーホック戦（アニ×サカ対象試合）において『狼と香辛料』のヒロイン・ホロのフィギュアをゲット。満面の笑みを浮かべた。

※6　鉄壁防御

東京ヴェルディ主将・井林章選手（ＤＦ）の有する能力。鉄壁防御と書いて『ツーディメンションラブ（二次元愛）』と読む。「敵フォワードのドリブルはもちろん、中盤からの敵ロングパスなどの空中戦もその長身を活かして徹底的に防ぎきる。その原動力はアニメキャラクターへの愛の力である。」（以上、東京ヴェルディとアニメ『とある科学の超電磁砲』とのコラボデー『とあるアニメの蹴球試合』に配布されたマッチデープログラムより抜粋）

※7　カマタマーレ

香川県のサッカーチーム、カマタマーレ讃岐。釜玉うどんとイタリア語で海を意味する「マーレ」を合わせた名前で、エンブレムにはうどんが描かれている。

※8　お金持ち

資金難による経営危機に喘いでいたFC岐阜だったが、岐阜県出身の実業家・藤澤信義氏がポーンと一億五千万円を寄付。藤澤氏はその後も億単位での支援を続け、ヤフーニュースのトップに『日本のチェルシー？　金満J2岐阜』という記事が出るくらい経営環境は劇的に改善された。

※9　ミナモ

ぎふ清流国体のマスコット。キラキラした川の水面（みなも）に住んでいるキラキラの妖精。いつも川の流れとともに、空を見て、自然を見て、街を見て、人々を見つめながら、旅をしている。職業旅人。スポーツ観戦が大好き。ある日、ぎふ清流国体のうわさを耳にしたミナモは、『この国体を応援することで、人と自然の懸け橋になろう。今、自分を知ってもらえば、自然のことも、人間のみんなと話し合え、美しい岐阜の清流、日本の、世界の、素晴らしい自然を大切に未来へつなげることの助けになるかもしれない。』と思い、国体のマスコットに就任。最初は『驚かれたらどうしよう』と心配していたようだが、ほがらかな岐阜の人々は、ミナモを歓迎した。ミナモはキラキラの妖精です。今日も、明日も、あさっても、ずっと未来も、キラキラしていくことでしょう。岐阜を愛する、自然を愛する人々が未来にいるかぎり。

二〇一四年ゆるキャラグランプリ総合二五位、二〇一五年Jリーグマスコット総選挙四〇位（最下位）。ミナモはファジアーノ岡山のファジ丸（三七位）と共にJリーグ非公認マスコットであるためJリーグマスコット総選挙はいわばアウェーであり、それで票が伸び悩んだ可能性がある。二〇一二年からFC岐阜の応援マスコットとして一年の期限付きでレンタル移籍していたが、その後も順調に契約更改を続け、二〇一五年現在も応援マスコットとして長良川競技場で頑張っている。水属性を有するからか、たまに増殖して大量に登場することもある。

なお公式プロフィールを見ると「はじめて岐阜県に辿り着いた時、豊かな自然、清らかな川とともに多くの人々が笑顔で暮らしていることを知り、大好きな場所になりました。」と書いてあるため、出身地は岐阜県でない可能性が高い。

※10　プリニー

日本一ソフトウェアのゲームに登場する、ペンギンに羽が生えたような外見の生きもの。キャラクターデザインは原田たけひと先生。『魔界戦記ディスガイア』で初登場し、よく爆発する。二〇一四年から期限付き移籍でFC岐阜に加入。ポジションはFC岐阜応援マスコット・応援隊長。記者会見では日本一ソフトウェアの新川宗平社長がプリニーの被り物をして登場した。長良川競技場にはミナモと一緒によく登場し、グッズがもらえることもある。

※11　日本一ソフトウェア

岐阜県各務原市蘇原に本社を構えるゲーム会社。FC岐阜のスポンサー（シルバーパートナー）。代表作は『魔界戦記ディスガイア』シリーズ他多数。二〇一二年、『最も多くのシミュレーションRPGを発売した会社』としてギネス世界記録認定されたと発表。これについて新川宗平社長は「この認定なんですが、ギネスのほうから連絡があったわけではなく、登録されているらしいというウワサで知ったことだったんです（笑）。「本当なの？」と調べてみたら、実際に登録されていてビックリしました。」と語っている。しかも登録自体は二〇〇八年に行われていた模様で、他にも『世界でもっともレベル上げができるゲーム』や『世界でもっともイニシャルダメージが大きいゲーム』という認定を受けている。

※12　怪我

東京ヴェルディのマスコットであるヴェルディ君は、二〇一四年八月三一日、イベントで遊んでいた際に右足の爪を負傷。全治二～三日くらいというアバウトな診断結果がクラブより公式発表された。その直後、立川市に本社を置く株式会社エーウイングさんとヴェルディ君とのあいだでマスコットパートナー（靴）契約を新規締結。同社の門脇恵二代表取締役は「ヴェルディ君がイベントで足を怪我してしまったと知り、社内の女性スタッフに伝えたところ、かわいそうとの声が上がったので、早速、靴を提供させて頂きます。今後は、ちゃんと靴を履いて下さいね」とコメント。それまで裸足だったヴェルディ君が靴を履くと共に、その靴両足に同社のロゴが掲出されることとなった。

その後、二〇一五年四月にも再びギックリ腰で負傷。入院し、クラブで入院費用を負担したが、ちょうどそのタイミングでアクサダイレクト生命保険株式会社さんと東京ヴェルディがコーポレートパートナー契約を締結したと発表された。

なお、ヴェルディ君にはかねてよりメタボ疑惑が取りざたされていたが、こちらも『稲城市介護ボランティア制度』への参加によって株式会社タニタさんから提供された歩数計（東京ヴェルディ特製ステッカー付き）を装着することで解消された……か？

※13　萌えキャラ

川崎フロンターレ公認キャラクター『カワサキまるこ』のこと。妖怪ねこまた。二〇〇二年、多摩川の大増水に巻き込まれたところをフロンターレサポーターの地元民に丸子橋のたもとで助けられたことから『まるこ』と命名された。そのことに恩義を感じ、一緒にJ2→J1時代の川崎フロンターレを応援するようになってフロンターレサポーターに目覚める。特に応援はじめの二〇〇三年加入選手に対する思い入れは強く、中村憲剛選手には惜しみないエールを送り続けている。ジュニーニョ選手退団の折には一週間寝込んだ。キャラクターデザインは川崎に在住歴があるという有馬啓太郎先生。フロンターレはこの萌えキャラを引っさげて『コミックマーケットスペシャル』に参戦。会場である幕張メッセまでツアーバスを仕立てたり、Jリーグ得点王である大久保嘉人選手を『カワサキまるこTシャツ』のモデルに起用するなど、従来のサッカー界の常識を覆す活動を行った。同チームはJリーグが行っているスタジアム観戦者調査で、地域貢献度において五年連続で全五二クラブ中一位に輝いている。

なお、FC愛媛にも『たま媛ちゃん』というとてもかわいらしいキャラクターがいるが、頭部がミカンなので少しハードルが高い。

※14　川口能活

元日本代表のゴールキーパー。そのプレースタイルから『炎の守護神』『魂の守護神』と呼ばれる。FC岐阜には二〇一四年に移籍。単身赴任であり、1Kのアパートで暮らしている様子がテレビ番組で放映された。朝食はほぼ毎日、すき家で取っているらしい。油物は好きだが自己管理のため控えており、行きつけの食堂には油を控えた特注メニュー『能活定食』があるという。高校時代から下宿していたため洗濯は得意で、「柔軟剤が結構大事です」と語る。

※15　ピクシー

ドラガン・ストイコビッチ元名古屋グランパスエイト監督。日本食が好きで、岐阜県飛騨市でのチームキャンプ期間中に三五匹の鮎を食べたこともある。イワナやニジマスも食したが、鮎以外はカウントしないという独自の哲学を持っている。「鮎は世界的に見ても素晴らしい魚です。美しいですし、鮎には申し訳ないが、とても美味しい魚です」と絶賛すると同時に、縄張りを有する鮎の習性を深く理解した上で「選手たちにも鮎のファイティングスピリットを見習って欲しいと思います」と語った。退任時に新聞に寄せた手記では「毎年、岐阜県飛騨市で行うキャンプもいい思い出だ。飛騨はセルビアの故郷ニシュにそっくりなんだ。広大な自然があり、川魚の調理法まで似ている。今年は1週間で30匹以上のアユを食べさせてもらった。周りは静かで、地元のもてなしも素晴らしい。選手が練習に集中する環境としては最適だった。」と、名古屋だけではなく岐阜への感謝も綴った。うどんもよく食べ、東西でつゆの濃さが違うことにも自分で気づいたという。

※16　オレンターノ岐阜

FC岐阜後援会。『俺んたぁの』は岐阜弁で『俺たちの』という意味になることから、『俺んた岐阜県民はみんな、サッカークラブを持っている。』という意味を込めてこの名がつけられた。最近は飛騨牛をモチーフにしたマスコットも登場。存在感を強めている。

※17　飛騨牛の碁盤乗り

岐阜県立加茂農林高校で行われている牛の高等調教技術。校内で飼育している飛騨牛を、綱打ちと声だけで碁盤に乗せる。この調教が伝わっているのは全世界で岐阜県と岡山県のみである。二〇一四年の『のうりんコラボ』に

おいて長良川競技場で披露され、サッカーファンから喝采を浴びた。詳しくは『のうりん5』を参照。

※18　アニメ鑑賞会

茨城県水戸市をホームタウンとする水戸ホーリーホックと、同じく茨城県の大洗町を舞台とするアニメ『ガールズ&パンツァー』とのコラボデー『大洗の日』（二〇一四年一一月一日。横浜FC戦）において、試合後に同作第四話がスタジアムの大型ビジョンを使って上映された。同話は大洗女子学園が横浜の聖グロリアーナ女学院と対戦した回に当たり、大洗町を疾走する戦車の姿が描かれている。作中では大洗女子学園は聖グロリアーナ女学院に敗れるが、サッカーの試合は二対二の引き分けであった（水戸ホーリーホックのオフィシャルブログでは『勝利こそ逃しましたが、二両撃破することができました（笑）』と表現された）。

なお、大洗町は現在のところホームタウンではないが、ひたちなか市、那珂市、笠間市、小美玉市、茨城町、城里町、東海村と共に『水戸ホーリーホック・ホームタウン推進協議会』に加盟し、クラブを組織的・広域的に支援している。

※19　戦車

前述『大洗の日』に、ケーズデンキスタジアム水戸ゴール裏に置かれた『日照戦車』のこと。大洗町にある有限会社日照プラント工業さんが軽トラックを改造して製作したことからこう呼ばれる。自走可能。当日は大洗女子学園と水戸ホーリーホックの旗が掲げられ、ハーフタイムでは砲撃パフォーマンスが行われた。

※20　あんこう汁

前述『大洗の日』に、あんこう唐揚げ等と一緒にスタジアムグルメとして登場。水戸ホーリーホックのメディアスポンサーである株式会社飯岡屋水産さんによる出店。大洗町の名物であるあんこうの味が素晴らしいのはもちろん、当日は雨で気温が低かったこともあり、好評を博した。

※21　ふくやの明太子

『株式会社ふくや』さんは福岡県福岡市をホームタウンとするアビスパ福岡のプレミアムパートナーである。創業者の川原俊夫氏は博多式の辛子明太子を開発・普及した人物として知られる。

二〇一三年一〇月、地元紙である西日本新聞は、アビスパ福岡が極めて厳しい経営状態にあると報じた。一一月三〇日までに五〇〇〇万円が用意できなければ、社員や選手の給与遅配が起き、クラブライセンス剥奪の可能性すらあるというショッキングなもので、だがこれを受けた福岡市や地元企業は「これ以上の追加支援は難しい」と慎重な姿勢を示した。そのような厳しい状況の中、サポーターによる支援が相次ぎ、またサッカーファン以外の福岡市民や他クラブのサポーターも続々と支援してくれたことで風向きが変わり始める。そして一〇月三一日には、ふくやさんが『アビスパ福岡応援キャンペーン』を発表。その内容は、数量・期間限定でアビスパ福岡支援商品を販売し、その売上金全額を追加支援に回すという、いわばふくやさんにとっては「売れたぶんだけ損をする」という凄まじいものであった。この支援計画を会議で聞いた同社の川原正孝社長は一言「おう、いけ」とゴーサインを出したという。当初の目標額は五〇〇万円に設定されていたが、通販分は即日完売。その追加分すら三時間で売り切れた。ポーターが来店し品切れとなったため、キャンペーン開始日に追加販売が決定。その追加分すら三時間で売り切れた。一一月七日には更なる追加販売を発表。最終的には一七七六万八〇〇〇円を売り上げて、他の支援を含めアビスパ福岡が必要としていた五〇〇〇万円を超える金額が集まった。その後、支援商品を買った人の元には、ふくやさんからのお礼状が届けられた。

なお、ふくやさんと明太子の歴史は、同社のホームページに掲載されている漫画『博多明太子物語』で楽しく知ることができる。

※22　こもりさん

長良川競技場の屋台村に出店している『飛騨牛のこもり』のこと。一本四〇〇円で提供されている飛騨牛串焼きは、一本ごとに、肩・バラ・もも肉の各部位の味の違いが楽しめるように分配して刺し、じっくり丁寧に焼き上げられている。岐阜県『飛騨・美濃すぐれもの』に指定され、岐阜県観光連盟会長賞等を受賞した逸品。この飛騨牛

串焼きと、『ひだコロッケ本舗』のひだコロッケ（二〇〇円）と、『岐阜グランドホテル』の特製カレー（六〇〇円）を合わせて「三種の神器」と呼ぶサポーターもいる。もちろん他のスタジアムグルメもとても美味しいので、ぜひ実際に岐阜にお越しいただいて全てのスタグルを制覇し、あなたのナンバーワンを決めていただきたい。

※23　お城

ＦＣ岐阜のホームスタジアムである岐阜メモリアルセンター長良川競技場からは、金華山に聳え立つ岐阜城を見ることができる。夜になりライトアップされた岐阜城の幻想的な美しさは一見の価値があるため「ナイトゲームは帰るのが遅くなるから……明日は仕事だし……」とか言わずに、ぜひ夜の試合も見に来ていただきたい。

ちなみに徳島ヴォルティスのホームスタジアムである大塚スポーツパークポカリスエットスタジアムからもお城を見ることができ、こちらは撫養城という。

※24　緑の血が流れている

二〇〇五年一二月、東京ヴェルディの新監督として会見したラモス監督は「緑の血が流れているかと思うくらい東京ヴェルディが気になっていた。時が来た」と語った。その八年後に同じ緑をクラブカラーとするＦＣ岐阜の監督に就任したのは、やはり緑の血が流れているからなのか……。

※25　アキラメナイ

二〇一三年七月一七日、第二四節終了時点でＪ2最下位、失点もＪ2最多の四九失点（ガンバ大阪戦ではＪ2最多失点記録となる八失点）、得点もＪ2ワースト2位の一九得点と沈みに沈んでいたＦＣ岐阜は、チーム浮上の起爆剤とすべく『#アキラメナイ部』を設立。当時のキャプテン服部年宏選手からファン・サポーターへ向けて「#アキラメナイ」メッセージが発信された。具体的な活動としては「目指せトレンド入り。タイムラインを「#アキラメナイ」で埋め尽くそう！」というもので、毎ホームゲーム直前の金曜日を「ＦＣ岐阜フライデー」とし、twitter にてサポーターから選手やクラブに対する「#アキラメナイ」メッセージを募集するというものだった。

その後、このアキラメナイ気持ちが実を結び最下位を脱出、見事Ｊ2残留を果たすと同時にクラブの経営環境も劇的に改善された。

膨らみ続ける累積債務によってＪ2ライセンス剥奪の恐怖に晒されつつも第三四節でガイナーレ鳥取との最下位直接対決を制し、なおかつその年のＪ2・ＪＦＬ入れ替え枠が一枠だったことから入れ替え戦も行われず辛くもＪ3降格を免れたＦＣ岐阜の活躍（カマタマーレ讃岐と入れ替え戦を行ったガイナーレ鳥取は一敗一分けでＪ3に降格）は『#アキラメナイの奇跡』として長く記憶されるべきであろう。

なお、二〇一五年シーズンのホーム開幕戦直前に行われた twitter 上の『武将カウントダウン』において「今年もＦＣ岐阜は最後まで#アキラメナイプレーをお約束します！」というツイートが登場したことから、#アキラメナイ部の活動は現在も続いている模様である。

※26　ファジアーノ岡山

岡山県をホームタウンとするクラブ。『ファジアーノ』はイタリア語で『雉』を意味するファジャーノに由来するが、これは岡山の県鳥が、桃太郎に登場する雉であることからきている。

ファジアーノは春季キャンプの前にウィンターキャンプを行っており、二〇一二年は韮山での雪山登山キャンプ、二〇一三年と一四年は小豆島で自転車に乗っての霊場八十八箇所巡りが行われ、それらの様子は地元テレビを含む多くの媒体で報道された。二〇一五年には瀬戸内の無人島でサバイバルキャンプを行ったが、この際、装備や食料の調達は架空通貨『ＦＡＧＩ』を使って行われた。レートは10ＦＡＧＩ＝一〇〇〇円。キャンプ期間中はＦＡＧＩ獲得をかけたビーチバレーボール大会や流木アートコンテスト、ランチコンテスト等が開催された。キャンプ最終日の四日目には選手自らが作った筏によって無人島を脱出。「キャンプを通して人を思いやる心や、コミュニケーション能力を養うことができた。それは必ずピッチの上でも生きる」と選手たちは力強く語った。なお、このウィンターキャンプではサッカーボールは一切使われない。

※27　共に進み、共に闘う

二〇一五年のＦＣ岐阜のスローガンは「共進共闘！　ぎふを元気に！　ぎふをひとつに！」。ちなみに二〇一四年のスローガンも「共進共闘！　ＢＯＬＡ　ＰＲＡ　ＦＲＥＮＴＥ　ＧＩＦＵ！」であった。日本語になって一般のお客さんにも親しみやすくなった。

※28　金華山

岐阜市内に存在する山。標高三二九メートル。かつては稲葉山と呼ばれた。金華山という名前は、五月上旬にブナ科の樹木であるツブラジイが黄色い花を咲かせ、全山が黄金色に見えることからついたという。山頂には岐阜のシンボルである岐阜城が聳える他、リス村や売店、レストラン、ロープウェイもあることから、市民の憩いの場として親しまれている。ただし戦国時代の城塞に利用されたことからもわかるとおり、地形そのものは非常に急峻かつ堅固な岩山であり、イノシシが暮らしている痕跡も認められる等、必ずしも安全な山というわけではない。

この金華山はかつてＦＣ岐阜のトレーニングにも使われており、選手たちは麓から山頂まで走って往復した。フィジカルトレーニングとしての意味ももちろんあったが、サッカーの長いシーズンを戦い抜いていく中で、気分転換やガス抜き、原点回帰、目標の再確認をすることなど、様々な目的でこの金華山トレーニングを行ったという。だが大友慧選手が手を骨折するというアクシデントに見舞われたためか、最近は行われていない。元ＦＣ岐阜監督・松永英機氏のブログには「２００７年ＪＦＬからＪ２昇格目前に金華山トレーニングしたことは今でも鮮明に覚えている。この時、調子の良かった大友選手が下り坂で手を骨折してしまったのは誤算であったが…。」と当時のことが綴られている。美しい岐阜の大自然が人類に牙を剥いた瞬間であった。なおこの二〇〇七年の一二月三日、ＦＣ岐阜はＪリーグ臨時理事会でＪリーグ加盟が承認され、Ｊ２昇格が決定している。

そして松永元監督のブログは「人生山あり谷あり…どんな山でも山頂を目指して一歩踏み出していくことが大切ですね…私はＦＣ岐阜時代に金華山トレーニングで多くのことを学び今でも一人で金華山に登ります…様々な思いを抱きながら…。」と結ばれている。

最新１０巻 大好評発売中!!

今日はみなさんに、とっっっても残念なご報告があります。わたし、戸次菜摘は――

結婚します!!

男子生徒のみんな！先生が人妻になっちゃって落ち込むのは仕方ないけど、元気出さなきゃダメだゾ！　だってだってぇ、これから始まる『インターンシップ』で、いろぉ～んな仕事を体験しなきゃならないんだからね☆

男の魅力は出世と収入！いい就職先を見つけて、みんなも先生みたいな若くてピッチピチな奥さんをもらっちゃお～♪

聖夜に起きた奇跡と農業の物語、将来(みらい)へと繋がる第10巻!

１～９巻も好評発売中！